

《山宮喬也ボールペンで描く花咲線の駅舎たち》



石炭搬出に始まった北海道の鉄道は開拓を推し進める役割も担い、特に奥地、辺地へと開拓が進む中、最も頼れる力として迎えられ絶大な信頼の中で路線を広げて行きました。石炭輸送と共に開拓民の安心や希望、戦後復興、経済成長の大動輪として懸命に駆けて来たのです。しかし時代は急変し、1980年(昭和55年)の国鉄再建法以降分割民営化、路線の縮小廃止で北海道の路線は37から14へ。全国に活躍する多くの道産子達が帰るふるさとの駅が姿を消してしまいました。

「ふるさとの訛りなつかし停車場の人ごみの中にそれを聴きに行く」(啄木)や、井沢八郎の「あゝ上野駅」が思い浮かびます。最寄りの駅こそ我がふるさとに一番近い出口であり、その向こうにつながる駅こそ我が家へ続く玄関だったのです。

平成15年、当時残っていたふるさと銀河線を皮切に、全道JR全駅舎をボールペンで描き上げ、この程「北海道の駅舎たち」として出版いたしました。

根室と釧路を結ぶ花咲線21駅は、赤字ローカル線の憂き目にも遭わず今も健在。気取りや豪華さはありませんが、人々の優しい目や手に守られて静かに「お帰りなさい」と迎えてくれる駅姿です。酪農喫茶グラッシーヒルさんのメニューと共に、素朴で暖かい花咲線を始め道内各路線の駅舎たちを話題にして頂ければ幸いです。

《展示作品》

花咲線＝根室駅、東根室駅、花咲駅、西和田駅、昆布盛駅、落石駅、別当賀駅、初田牛駅、厚床駅、姉別駅、浜中駅、茶内駅、糸魚沢駅、厚岸駅、門静駅、尾幌駅、上尾幌駅、別保駅、武佐駅、東釧路駅、釧路駅
旧標津線＝奥行臼駅

《作者略歴》

1935年(昭和10年)函館市生・北見市在住 1945年(昭和20年)豊富村報徳へ移住
2003年(平成15年)存続が話題のふるさと銀河線駅舎をボールペン描き始める
2005年(平成17年)ボールペンで巡るふるさと銀河線の駅舎たち展(北見市)
2006年(平成18年)ふるさと銀河線駅舎絵はがき発行(北見市北海印刷)
2009年(平成21年)石北本線の駅舎たち展(北見市)
2010年(平成22年)釧網本線の駅舎たち展(北見市)
〃 〃 「思い出のふるさと銀河線駅舎たち」自費出版
2011年(平成23年)釧網本線・花咲線の駅舎たち展(中標津町)
2012年(平成24年)「北海道の駅舎たち」出版(バルクカンパニー)

《開催要領》

2013. 4. 27～6. 30 根室市明郷101 酪農喫茶グラッシーヒル(Tel0153- 26-2288)
午前9:00～午後6:00 定休第1・3水曜日(G・W 無休)
主催 バルクカンパニー ・ 後援 JR 北海道釧路支社